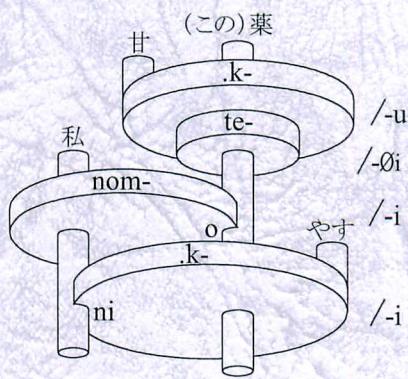
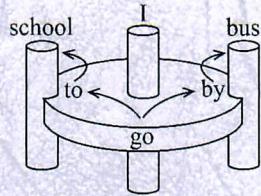
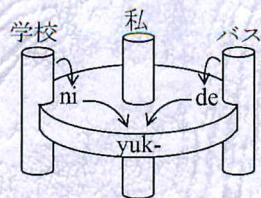


主語と時相と活用と

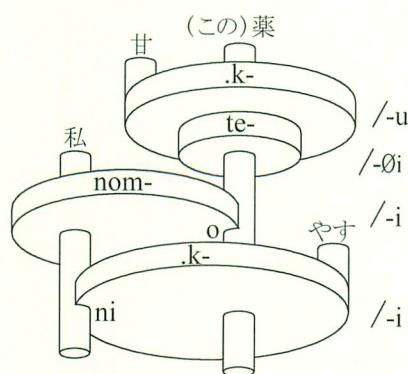
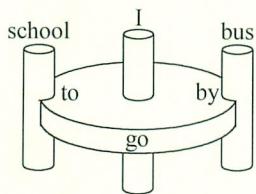
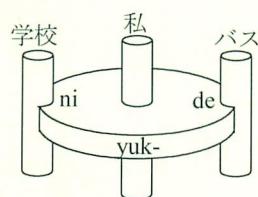
—日本語構造伝達文法・発展C—



今 泉 喜 一

主語と時相と活用と

—日本語構造伝達文法・発展C—



今 泉 喜一

まえがき

幸い日本語構造伝達文法の発展Cを出せることになったので、今日は書名を『主語と時相と活用と－日本語構造伝達文法・発展C－』とすることにした。単に『発展C』とするよりは、この方が多少とも内容が表現できて、関心のある人の役に立つと考えたからである。日本人は「主語」について常に関心があるし、また最近は「活用」についての議論が盛んになりつつある。

「時相」についてはこれからの展開が予想される。

書名には3つの項目しか載せることができなかつたが、この『発展C』で扱っている項目には、さらに「同格名詞列挙」「接続の構造」「挨拶表現」「モダリティ」がある。

以上の項目はいずれも日本語の構造をより確かなものとして捉えるという観点から気になっていたことであったので、今回このような形で扱うことができて、だいぶ肩の荷を下ろすことができた。もちろん、もうやることがなくなった、というわけではない。

大学院生のときに始めたこの研究が大学教員としての定年を迎えるこの時期に自分なりに納得のいく形でまとめられるようになったことはありがたいことである。



本書の内容は、これまでの研究成果をふまえており、論述において前著の関係部分に言及することも多い。前著の記述に言及する場合は次のようにしている。

章節数表示において、たとえば『文法』3.1あるいは単に3.1となっているものは『日本語構造伝達文法』(2000、現在は改訂12年版)の章節であ

まえがき

ることを示している。A3.1, B3.1のように、A, B が付いている章節数は、それぞれ『発展A』『発展B』の中の章節であることを示しており、C3.1 のように C が付いているものは本書中の章節を示している。一覧の形にすれば、次のようなになる。

(『文法』3.1)／3.1 ……『日本語構造伝達文法』中の章節

A3.1 ……『日本語構造伝達文法 発展A』中の章節

B3.1 ……『日本語構造伝達文法 発展B』中の章節

C3.1 ……本書『日本語構造伝達文法 発展C』中の章節



「日本語構造伝達文法」はホームページでも情報発信を行っている。

<http://www012.upp.so-net.ne.jp/nikodebu/>

このサイトは簡単に「ニコデブ」で検索することができる。

このサイトでは『日本語構造伝達文法』、『日本語構造伝達文法 発展A』が読めるようになっている。また、「不思議ノート」があるほか、大学院の授業で使用している教材のかなりの部分がPDFとパワーポイントの形で掲載してある。研究会案内もある。

研究会は小さな研究会だが、JR八王子駅近くで月1回開いている。この研究会から研究会報のようなものが出せるようになればと思う。(関心のある方はお気軽にご参加ください。)



本書では、C5章(C5.12)に木村泰介君の卒業論文の内容を本書の形式に合わせて載せることができた。杏林大学外国語学部在学時に私のゼミで考察し、その成果をまとめたものである。



これまでには、構造の立体モデルを、「花子」という描画ソフト(ワープロソフト「一太郎」を製作しているジャストシステム社のソフト)を使用して描いてきたが、これからは3Dプリンターを活用する道もあるように思う。その方策なども考えていきたい。



本書において考察し、明らかにしていることは次のようなことである。

C I 部 日本語構造の基本

C 1 章 日本語の主語 …… 日本語の主語がどのようなものであるのか、その実相を立体構造モデルを用い、かつ歴史的変化をも踏まえて明らかにしている。日本語にほとんど気づかれずに存在する二重主語の6種類のあり方もまとめる。

C 2 章 因果の複主体（疲れる文）…… 「君の話は疲れる」「コンニヤクは太らない」の文が二重主語文の一つであることを構造モデルで明らかにし、このタイプの二重主語が「因果の複主体」構造を持つことを述べる。

C 3 章 同格実体描写 …… 複数の名詞が同じ格にある場合を3種類に分けて論じる。①「手帳とカレンダーを買った。」 ②「葛飾は柴又で生まれた。」 ③「雑誌を5冊買った。」 また、「富士山と味を見た」が奇異な理由も「格」で説明する。

C 4 章 形式断定基（うなぎ文）…… 「うなぎ文」の「ぼくはうなぎだ」における「だ」は「述語の代行」であるとの説があるが、構造から見ると実は「だ」は「形式的補充」である。「だ」は「だ₁、だ₂」の2種類を設定することが必要であることを述べ、「雪は白いです」のような「形容詞+です」についても考察し、「です₃」を設定する。

C 5 章 活用 …… 最近「活用」についての議論が高まっている。本章では従来の国語学的な活用の捉え方の不備を指摘しつつ、活用とは動詞（形容詞も）に形態素が付加される現象と捉えるのが適当であることを詳述する。また、付加されるそれぞれの形態素の機能について構造モデルを用いて明らかにする。

C II 部 慣用構造

C 6 章 接続の構造(1) 理流、論流 …… 2つの文が接続するときの順接・逆接などの捉え方の理論的根拠を明らかにするために「理流、論流」とい

まえがき

う概念を設定する。図示により理解を助ける。

C 7 章 接続の構造(2) 接続力 …… 接続詞・接続助詞はなぜ接続する力を持つのかについて、その原理を立体構造モデルを用いて明らかにし、個々の具体例につき説明する。

C 8 章 挨拶表現の構造 …… 日常的に使用される各種の挨拶の構造を立体モデルで示し、挨拶表現の真の意味を明らかにするとともに、構造そのものに対する理解を深める。

C III部 時相

C 9 章 古代語の時相 …… 古代語のテ ns・アスペクトの様相をモデル図を用いて解明する。「つ, ぬ, り, たり」「き, けり」「てき, にき, てけり, にけり」が体系的に明らかになり、図示により非常に理解しやすいものとなる。

C 10 章 日常の中の時相(1) …… 現代語において日常使用されている発話文の中のテ ns・アスペクトのあらゆるあり方の捉え方の原理を示す。原理は単純で理解しやすい。

C 11 章 日常の中の時相(2) …… C 10 章で示された原理に基づいて、新聞記事やブログ記事、発話例等の具体例に当たりながら実際の分析方法を示す。これに倣えば、だれでも適切な分析図が書けるようになり、考察を深めることができるようになる。

C IV部 発話

C 12 章 発話構成 6 要素 …… 「日本語構造伝達文法」でのモダリティの扱い方について述べる。発話を構成するものは、川選択一気持ち一構造構築一水域選定一情報処遇一発話効果発生の 6 要素であるとし、それぞれの要素を図示により理解しやすくする。

2014 年 1 月 今泉喜一

目次(1) 部・章目次

まえがき (1)

目次 (5)

C I 部 日本語構造の基本 (1)

C 1 章	日本語の主語	3
C 2 章	疲れる文（因果の複主体）	29
C 3 章	同格複実体描写	39
C 4 章	うなぎ文（形式断定基）	55
C 5 章	活用	67

C II 部 日本語慣用構造 (119)

C 6 章	接続の構造(1)(理流・論流)	121
C 7 章	接続の構造(2)(接続力)	131
C 8 章	挨拶表現の構造	171

C III 部 日本語の時相 (191)

C 9 章	古代語の時相	193
C 10 章	日常の中の時相 (1)	211
C 11 章	日常の中の時相 (2)	245

C IV 部 発話 (263)

C 12 章	発話構成 6 要素	265
--------	-----------	-------	-----

あとがき (281)

主要参考文献 (285)

索引 (291)

目次(2) コラム目次

- | | | |
|-------|------------------------------|-------|
| コラム 1 | 私の願い……文法を化学のような科学に | (27) |
| コラム 2 | 二重主語の形容詞も多い | (28) |
| コラム 3 | 葛飾は柴又の生まれ | (54) |
| コラム 4 | すべての格、言語要素を数え上げるという課題 | (66) |
| コラム 5 | 英語は前置詞、日本語は後置詞 | (190) |
| コラム 6 | 「ここ <u>で</u> いてください」となぜ言わない? | (280) |

目次(3) 詳細目次

まえがき (1)

目次(1) 部・章目次 (5)

目次(2) コラム目次 (6)

目次(3) 詳細目次 (7)

C I 部 日本語構造の基本 (1)

C 1 章 日本語の主語	3
C1. 0 日本語の主語 (3)	
C1. 1 構造と文 (4)	
C1. 1 (1) 構造と描写 (4)	
C1. 1 (2) 実体と属性と格 (4)	
C1. 2 主体と客体 (5)	
C1. 3 主語 (6)	
C1. 3 (1) 文中では主語は属性より前の位置にある (6)	
C1. 3 (2) 主体が主語である場合 (6)	
C1. 3 (3) 主体が主語でない場合 (7)	
C1. 4 主題……主題主語, 主題客語 (7)	
C1. 4 (1) 主題の図示 (7)	
C1. 4 (2) 主題主語 (8)	
C1. 4 (3) 主題客語……「を格」の場合 (8)	
C1. 4 (4) 主題化図示は必須ではないこと (9)	
C1. 4 (5) 主題客語……「に格」「で格」「へ格」の場合 (9)	
C1. 4 (6) 主題一解説 (10)	
C1. 4 (7) 主文主語の「は」は主題化と対比, 従属節主語の「は」は対比	
C1. 4 (8) 相対化描写詞 (11)	(10)

C1.5 話題……話題主語, 話題客語	(11)
C1.5 (1) 「が」も「は」も使わない主語	(11)
C1.5 (2) 主格詞「 \emptyset_1 」……ゼロイチ	(12)
C1.5 (3) なぜ主格に格詞がないのか	(13)
C1.5 (4) 基本3主格	(14)
C1.5 (5) 「が」は第1主格主語(本来的な主格主語)を表せない	(14)
C1.5 (6) 第1主格主語は「 \emptyset_1 」か「 \emptyset_1 は」で示される	(14)
C1.5 (7) 主題主語, 事象主語, 話題主語	(14)
C1.5 (8) 主題客語, 事象客語, 話題客語	(15)
C1.6 主語の現れ方…基本3形式(\emptyset_1 , が, は), 8種類の基本主語	(16)
C1.7 二重主語6種類……機能主語12種類	(17)
C1.7 (1) 6種類の複主語……6種類の複主体構造	(17)
C1.7 (2) 12機能主格……12種類の主体……12種類の主語	(18)
C1.7 [A] 単主体構造	(18)
C1.7 [B] 1属性に複主体が立つ複主体構造	(18)
C1.7 [C] 単位構造が属性となる複主体構造	(19)
C1.7 [D] 態複主体構造	(21)
C1.7 [E] 一テアル複主体構造	(22)
C1.7 [F] 時場複主体構造	(23)
C1.7 [G] 数量複主体構造 (時差複主体構造)	(26)
 C2章 疲れる文 (因果の複主体)	29
C2.0 原因—結果の複主体構造	(29)
C2.1 「あなたの話は疲れる」はどんな構造をしているか	(30)
C2.2 「あなた=の=話」は便宜的に1実体(1名詞)として扱う	(30)
C2.3 「あなたの話」は何格にあるか……「に・で」格, 「が」格	(31)
C2.4 「あなたの話」と「私」がともに主格にある……複主格	(33)
C2.5 複主体構造……本主体が単位構造を属性とする	(33)
C2.6 原因—結果の複主体構造	(34)
C2.7 構造Aと構造B(因果の複主体構造)の違い	(35)

C2.8 構造Aの特徴がそのまま構造Bの特徴であるわけではない	(37)
C2.9 二義性の存在	(38)
C3章 同格複実体描写 39
C3.0 同格複実体描写	(39)
C3.1 A, Bが対等な同格実体である場合の描写	(40)
C3.1.1 同格実体列挙描写	(40)
C3.1.2 同格実体列挙描写詞 と／に／や／0／か	(42)
C3.1.3 公式化	(45)
C3.1.4 格詞が同じでも格が同じとは限らない	(46)
C3.2 BがAの下位概念になっている同格実体である場合の描写	(47)
C3.2.1 両実体が客格にある場合	(47)
C3.2.2 時差同位格（客格）	(49)
C3.2.3 両実体が主格にある場合	(51)
C3.2.4 時差同位格（主格）	(51)
C3.2.5 公式化	(52)
C3.3 BがAの数量を表す同格実体である場合の描写	(53)
C3.4 似ているが本章の対象にならないもの	(53)
C4章 うなぎ文（形式断定基） 55
C4.0 「うなぎ文」	(55)
C4.1 「うなぎ文」の特異性……Aは「Bだ」の主語でない	(56)
C4.2 「だ」は「である」と同じ構造	(56)
C4.3 「うなぎ文」の本文法でのとらえ方……省略文の形式補充	(57)
C4.4 形式断定基	(58)
C4.4 (1) 形式断定基……肯定の場合	(58)
C4.4 (2) 形式断定基……否定の場合	(59)
C4.5 ほかの例	(60)
C4.6 「うなぎ文」の主語	(61)
C4.7 「うなぎ文」の「だ」は述語の「代用」か	(61)

C4. 8 「白い／です」も形式断定基を使用	(62)
C4. 8 (1) 「形容詞+です」は昔は文法的に誤りだった	(62)
C4. 8 (2) 「形容詞+です」は「うなぎ文」ではない	(63)
C4. 9 「だ・です」の3種類……「だ1・です1」「だ2・です2」「です3」	
	(65)

C 5 章 活用	67
C5. 0 日本語用言の「活用」	(67)	
C5. 0. 1 新=活用表（動詞）	(68)	
C5. 1 日本語動詞の伝統的な活用表……五段活用	(69)	
C5. 2 疑問……未然形、仮定形……仮=修正活用表	(70)	
C5. 3 日本語動詞の伝統的な活用表……一段活用	(72)	
C5. 4 そもそも「活用」とは	(73)	
C5. 5 動詞を「活用」するための方法	(75)	
C5. 6 構造を変えずに動詞を動詞語にするだけの形態素…描写詞	(76)	
C5. 6 (1) その動詞で文を終止するための描写詞	(76)	
① -(r)u ② -e/-ro ③ -(y)oo		
C5. 6 (2) その動詞の後に主文を続けるための描写詞	(78)	
④ -(i) ⑤ -(r)eba		
C5. 6 (3) 動詞を他属性や構造内外の実体と関係づけるための描写詞		
⑥ -(i) ⑦ -(r)u ⑧ -(i)		(79)
C5. 7 動詞に付加される属性の名称である形態素……属性詞	(86)	
C5. 7 (1) 動詞否定属性詞 ⑨ -(a)na.k-	(86)	
C5. 7 (2) 態属性詞 ⑩ -(s)as- ⑪ -(r)ar- ⑫ -e-	(87)	
C5. 8 非連体機能による実体修飾	(89)	
C5. 9 拡大活用表=例	(91)	
C5. 10 形容詞の新活用表	(92)	
C5. 10 (1) 文を終止する描写詞 -i	(93)	
C5. 10 (2) 主文を続ける描写詞 -u, -ereba	(93)	
C5. 10 (3) 他属性や実体と関連づける描写詞 -u, -i, -u	(94)	

C5.11	断定基の活用表	(96)
C5.11 (1)	文を終止する描写詞 -u, -e, -oo	(98)
C5.11 (2)	主文を続ける描写詞 -i, -eba	(99)
C5.11 (3)	他属性や実体と関連づける描写詞 -i, -u, -i	(101)
C5.11 (4)	否定属性詞 -(a)na.k-	(105)
C5.12 (C5.K)	木村泰介論文「動詞連用形の名詞化・名詞修飾」	(105)
C5.K.0	はじめに	(106)
C5.K.1	動詞連用形名詞用法の構造	(106)
C5.K.2	動詞と名詞をつなぐ連用形と連体形の棲み分けのルール	(111)
C5.K.3	まとめ	(118)

C II 部 日本語慣用構造 (119)

C 6 章	接続の構造(1)(理流・論流)	121
C6.0	順接・逆接をどう捉えるか	(121)	
C6.1	「接続」を意味の面で捉える	(122)	
C6.2	前件構造と後件構造……2つの構造, 2つの文	(123)	
C6.3	構造上の接続	(123)	
C6.4	意味上の接続	(124)	
a)	理の流れ……「理流」……常識的認識	(124)	
b)	論の流れ……「論流」……2理流間の関係	(125)	
C6.5	理流, 論流のモデル化	(127)	
C6.6	単なる格関係・単なる連合関係と「接続」の違い	(128)	
C 7 章	接続の構造(2)(接続力)	131
C7.0	構造間の論理関係を表す構造形式…接続基1～接続基10	(131)	
リスト①	接続助詞のリスト	(134)	
リスト②	接続詞のリスト	(134)	

- C7.1 [接続基 1] 独立構造並置 1 ……前件構造属性の基本描写 (135)
接続基1-1 異主語構造並置 (135)
接続基1-2 同一主語構造並置 (136)
- C7.2 [接続基 2] 独立構造並置 2 ……前件構造属性の連続描写 (136)
接続基2-1 異主語構造並置 (137)
接続基2-2 同一主語構造並置 (137)
- C7.3 [接続基 3] 独立構造並置 3 ……条件接続基等 (138)
接続基3-1 [ば] 条件接続基 -eba (138)
接続基3-2 [たら(ば)] 条件接続基 -a(ba) (139)
接続基3-3 [なら(ば)] 条件接続基 -a(ba) (141)
接続基3-4 [と] 条件接続基 -(r)u=to (142)
接続基3-5 [が] (143)
- C7.4 [接続基 4] 前件t(e)- 構造 (146)
……前件構造属性に t(e)- 属性付加
接続基4-1 [て] ……異主語 (147)
接続基4-2 [て] ……同一主語 (148)
[ては] (149)
接続基4-3 [ても] (149)
接続基4-4 [たり] ([だり]) (150)
- C7.5 [接続基 5] 前件構造の包含実体化 (150)
……前件包含実体が後件構造の要素
接続基5-1 [ので] (151)
接続基5-2 [のに] (151)
接続基5-3 [ながら] (151)
接続基5-4 [から(に)は] (152)
接続基5-5 [から] (153)
- C7.6 [接続基 6] 前件構造の代置実体化 1 (154)
……前件代置実体が後件構造要素
接続基6-1 [それで] (154)
接続基6-2 [そこで] (154)

接続基6-3 [で] (155)

接続基6-4 [それでは] (155)

接続基6-5 [では] (156)

接続基6-6 [それでも] (156)

接続基6-7 [でも] (156)

接続基6-8 [それから] (157)

C7.7 [接続基7] 前件構造の代置実体化2 (157)

……前件代置実体が包含実体要素

接続基7-1 [だから] (157)

接続基7-2 [それなのに] (158)

接続基7-3 [それだのに] (158)

接続基7-4 [なのに] [だのに] (159)

接続基7-5 [しかしながら] (159)

接続基7-6 [しかし] (160)

接続基7-7 [しかるに] (161)

C7.8 [接続基8] 前件構造の代置実体化3 (161)

……前件代置実体が仲介構造要素

接続基8-1 [それに] (162)

接続基8-2 [そうして] (162)

接続基8-3 [そして] (163)

接続基8-4 [ではあるが] [だが] (163)

接続基8-5 [だとすると] (164)

接続基8-6 [そうすると] (164)

接続基8-7 [とすると] (165)

接続基8-8 [すると] (165)

接続基8-9 [したがって] (166)

接続基8-10 [それにしても] (166)

接続基8-11 [なぜなら] (167)

C7. 9 [接続基9] 独立構造並置 4 (167)

……前件構造関連実体が後件構造の要素

接続基9-1 [かつ] (167)

接続基9-2 [また] (169)

C7. 10 [接続基10] 独立構造並置 5 (169)

……前件構造不関連実体が後件構造要素

接続基10-1 [ところで] (170)

接続基10-2 [ときには] (170)

C8 章 挨拶表現の構造 171

C8. 0 「構造」理解のために (171)

C8. 1 扱う挨拶表現のリスト (172)

C8. 2 おめでとうございます (173)

1) 呼びかけの構造 (173)

2) 「おめでとうございます」の構造 (形容属性) (173)

3) 「ございます」の構造表示 (176)

C8. 3 いただきます (「V-ます」の構造) (177)

4) を格実体(名詞)不描写の構造 (177)

5) 併合現象 (177)

6) へ(に)格実体(名詞)不描写の構造 (178)

7) 包含実体と動詞「s-」が併合する構造 (179)

8) 「V(あり)-ます」が「です」で表層化される構造 (179)

C8. 4 ごちそうさまでした(～でした／～ました, 尊敬の構造) (180)

9) 「～でした／～ました」の構造 (180)

10) 尊敬の構造 (182)

C8. 5 ごめんください(ませ) (願いの表現) (182)

11) 連用形での願い (182)

12) 尊敬構造での相手への願い (183)

C8. 6 お帰りなさい(ませ)	(184)
13) 頤いの表現を用いて相手の行為を好意的に描く	(184)
C8. 7 休ませていただきます	(185)
14) 許可を求める意志・願いの表明	(185)
C8. 8 こんなには／さようなら(必ず省略する部分がある表現)	(186)
15) 主題以外を省略する表現	(186)
16) 条件節のみを表層化し、結果節を省略する表現	(187)
C8. 9 じゃあ、また	(187)
17) 意志関連表現	(187)
C8. 10 めでたし／ありがたし	(188)
C8. 11 おわりに	(189)

C III部 日本語の時相 (191)

C 9章 古代語の時相	193
C9. 0 古代語のテ ns・アスペクトはどうなっているか		(193)
C9. 1 古代語の時相(テ ns・アスペクト)		(194)
C9. 2 アスペクト的グループ 「つ、ぬ／り、たり」		(195)
C9. 2(1) アスペクト(局面指示体系)表示法		(195)
.....出来事の舟・アスペクトの舟		
C9. 2(2) 「つ、ぬ」の基本.....局面3を指示		(196)
C9. 2(3) 「つ、ぬ」の構造と機能		(197)
.....前指向の局面3、後指向の局面3		
C9. 2(4) 「り、たり」の基本		(199)
C9. 2(5) 「り、たり」の構造と機能		(201)
.....「り」は「たり」に統合される		
C9. 3 テ ns的グループ 「き、けり」／時相連合		(203)
C9. 3(1) テ ns表示法.....時の流れに出来事の舟が浮かぶ		(203)
C9. 3(2) 確実性(確率)		(204)

C9. 3(3) 「き」	①「き」	②「てき」	③「にき」	(205)
C9. 3(4) 「けり」	時相合	(207)		
	①「けり」	②「てけり」	③「にけり」	(208)
C9. 4 おわりに	(210)			

C10章 日常の中の時相 (1) 211

C10. 0 日常の中の時相 (211)

C10. 1 時相 (212)

C10. 1. 1 テンスとアスペクト (212)

C10. 1. 2 ル形とテンスに関する理論的理解 (213)

C10. 1. 3 まだ整備されていなかった時相 (214)

C10. 2 通時的観点から設定する時相表現の3段階 (215)

C10. 2. 1 歴史的变化 (215)

C10. 2. 2 歴史的变化の概要 (216)

[A] 事象生起そのものを表現する段階 (語幹のみ)

[B] 時制表現段階 (過去・非過去……事象を時の中に描く)

[C] 時相表現段階 (ティ等で事象を局面に分けて捉える)

C10. 2. 3 3段階それぞれの特徴……何を伝えるか (218)

C10. 3 4時相表現 (219)

C10. 3. 1 3段階から4時相表現を認定する (219)

C10. 3. 2 存在動詞A, 存在動詞B, 動き動詞 (221)

C10. 4 4時相表現と動詞 (227)

C10. 5 各時相表現についての検討 (229)

C10. 5 ① 無時相表現 [××] (無相無時) [◎] (229)

C10. 5 ② 相のみ表現 [○×] (有相無時) [●] (231)

C10. 5 ③ 時のみ表現 [×○] (無相有時) [◎↑] (234)

C10. 5 ④ 有時相表現 [○○] (有相有時) [●↑] (237)

C10. 6	類似表現間の関係	(239)
C10. 6. 1	①無時相表現と④有時相表現の場合	(239)
C10. 6. 2	④有時相表現の習慣と①無時相表現の習慣	(240)
C10. 7	動詞分類	(241)
C10. 8	補助アスペクト	(242)
C10. 8. 1	「進行内」補助アスペクト	(242)
C10. 8. 2	「補足」補助アスペクト	(243)
C10. 8. 3	その他の補助的出来事のアスペクト構成	(244)
C11章 日常の中の時相 (2)	 245
C11. 0	日常の中の時相	(245)
C11. 1	主文のみの例	(247)
①	無時相表現	(247)
②	相のみ表現	(248)
③	時のみ表現	(249)
④	時相表現	(250)
[補助アスペクトのある例]		(253)
C11. 2	名詞を修飾する文(従属節)の相対テンス・絶対テンス	(254)
[相対テンスでも絶対テンスでも意味が同じ場合]		(255)
[相対テンスと絶対テンスで意味が異なる場合]		(255)
[日本語では相対テンスのほうが優勢]		(256)
[絶対テンスが自然な場合]		(256)
C11. 3	名詞修飾の「た」が「ている」と同じ意味	(257)
C11. 4	無時相で、質として名詞を修飾する場合	(260)
C11. 5	引用部分のある場合	(261)

目次

CIV部 発話 (263)

C12章 発話構成6要素	265
C12.0 モダリティをどう扱うか	(265)
C12.1 発話に関わる6要素	(266)
1) モダリティ	(266)
2) 川選択－気持ち－構造構築－水域選定 －情報処遇－発話効果発生	(266)
C12.2 川と舟……道具の整備	(267)
1) 水域 (時域)	(267)
2) 3層川	(269)
3) 出来事の舟	(270)
C12.3 発話を構成する6要素の実際……例とともに考える	(272)
1) 川選択……3層川の中から	(272)
2) 気持ち	(272)
3) 構造構築……基本的構造(出来事の論理構造)を構築する	(273)
4) 水域選定……現実との時間・確率的対応及び出来事実現への態度 4) [A] 出来事実現への受容的な態度	(274)
4) [B] 出来事実現への能動的な態度	(277)
5) 情報処遇	(278)
6) 効果発生	(279)
C12.4 発話の特性……6要素による表示	(279)
C12.5 章のおわりに	(280)
 あとがき	(281)
主要参考文献	(285)
索引	(291)